

名前:

新聞や雑誌やインターネットの普及により、必要とされなくなり、いずれは無くなるというのでは、という人がいる。確かにインターネットは便利さ面が数多く存在する。新聞が基本的に朝夕2回の発行であるのに対して、インターネット上のニュースはほぼリアルタイムで更新を繰り返している。だから私もサッカーや野球などの試合結果を知りたくなるとき、インターネットで確認することばかりだ。また、インターネットにはつながってはいくつか、実質料金を徴収するところも多い。

これらの点はインターネットに固有のもので、新聞や雑誌では絶対に成り立たないことである。しかし、私は個人的な利点を挙げると、いかかわらず、インターネットが新聞や雑誌を完全に社会から駆逐するとは思えない。このことから人々から必要とされ続けると思う。

全ての人がインターネットを使えるわけでは

ではないという理由もあるが、何れにしても新聞や雑誌は有形という性質を持つからである。つまり、形が後々まで残る“物質”であるから、たとえ、その情報が一度発行されてしまえば出版社の信用が損なわれてしまうのである。裏を返せば、これは出版社や出版物の内容の真偽に影を落とすエピソードを使っていくという点から、インターネットよりも情報は正確だと言えるだろう。

また、インターネットのニュースには、新聞や雑誌に見られるような解説や解説という。ニュースを深く分析したような記事が少なく、ただ事実がいつ、どこで起こった、という類のことしか書かれていくことが多い。このことを物足りないと感じる人も多かったろう。

昔テレビが世の中に登場した際も新聞や雑誌は無くなり、とうとうと言われたと聞いたことがある。しかし現実には今も新聞、雑誌は存在するし、各個人にとっても使い分けがなされていくと感じる。インターネットも同じで、

1800字

例えど、遅く知リた「時日」インターネット、
深く知リた「時日」新聞や雑誌、と。によ
る使「分」けが徐々にと確立されていくのではな
いかと思う。